

開講専攻	授 業 科 目	担 当 教 員	必修 選択 の別	単位数
看護学 5セメスター 木・3	小児看護方法論 (5セメスター開講)	塩飽 仁	必修	2
授業題目	子どもを看護する原理と方法論			
授業科目の目的・概要及び到達目標等				
<p>疾病や障害を持つ子どもの看護援助方法について具体的に学びます。</p> <p>子どもの疾病について学んだ後に、子どもの入院や職種間連携と看護職者の役割について学習し、その後、看護診断と援助に必要な知識・理論・援助方法について学習します。</p> <p>これらの学習に基づき、子どもと家族を個別的・全人的視点で捉えて看護過程を展開する具体的な方法について学びます。</p>				
授業計画				
<p>第1回 小児疾病論1：小児の内分泌疾患・先天性代謝異常症（藤原幾磨）</p> <p>第2回 小児疾病論2：小児の感染症・呼吸器疾患（大浦敏博）</p> <p>第3回 小児疾病論3：小児の消化器疾患・栄養障害（加藤晴一）</p> <p>第4回 小児疾病論4：小児の神経疾患・発達障害（荻野谷和裕）</p> <p>第5回 小児疾病論5：小児の血液疾患・悪性疾患（土屋 滋）</p> <p>第6回 小児疾病論6：小児の心疾患（大野忠行）</p> <p>第7回 小児疾病論7：小児免疫疾患・アレルギー疾患・腎疾患（根東義明）</p> <p>第8回 小児臨床看護概論4：入院形態，入院環境，看護者の役割</p> <p>第9回 小児臨床看護概論5：付添と母子同室・面会，ホスピタリズムと退行，長期入院，学習支援</p> <p>第10回 小児臨床看護概論6：医療・福祉・教育の相互連携のあり方と看護職者の役割</p> <p>第11回 小児臨床看護方法1：情報収集とアセスメント バイタルサイン・身長・体重測定，サンプリング</p> <p>第12回 小児臨床看護方法2：検査の援助；骨髄・腰椎穿刺，諸検査（CT，MR，ECG，EEG）</p> <p>第13回 小児臨床看護方法3：与薬の援助；経口，坐薬，点滴，調剤 栄養障害，経口栄養（咀嚼），経管栄養，IVH，CV</p> <p>第14回 症状とケア技術1：発熱，嘔吐，下痢，脱水</p> <p>第15回 症状とケア技術2：けいれん・意識障害（便秘，浮腫）</p> <p>第16回 悪性疾患の子どもの看護1：化学療法を受ける子どもの看護</p> <p>第17回 悪性疾患の子どもの看護2：告知，ターミナル・ケア，家族のケア</p> <p>第18回 神経・精神障害の子どもの看護1：神経症の子どもと家族の看護</p> <p>第19回 神経・精神障害の子どもの看護2：軽度発達障害の子どもと家族の看護</p> <p>第20回 試験</p> <p>小児疾病論のうち5回は「疾病論」（5セメスター 月・1）として行う。</p>				
成績評価の方法及び基準				
<p>この授業は4および5セメスターにわたっておこなうもので、これらをあわせて2単位となる。</p> <p>4セメスター終了時に前半の筆記試験を、5セメスター終了時に後半の筆記試験を行って、これらをあわせて筆記試験評価とする。小児疾病論7回の終了後に疾病論のみの試験を行う。</p> <p>最終的な成績評価は、出席，レポート，筆記試験をもとに総合的に行う。</p> <p>（出席点は15%，レポート+筆記試験は85%とする）</p> <p>正当な理由がなく講義の4分の1以上欠席した場合は筆記試験の受験資格を認めない。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書 1) 奈良間美保ほか：系統看護学講座 専門22 小児看護学 [1], 医学書院, 2003</p> <p>2) 奈良間美保ほか：系統看護学講座 専門23 小児看護学 [2], 医学書院, 2003</p>				